

【基本施策の目的】

水害が起こりにくく、また、水害が発生した場合でも、その被害を最小限に抑制し、市民の貴重な生命と財産を守ります。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	<p>平成29年度に7件の床上浸水の被害が発生した理由は、平成29年7月14日などの記録的豪雨が続発し、住宅浸水被害などの災害が発生している状況を踏まえて、浸水リスクを低減し、治水安全度を高め、住民生活の安心・安全の向上に努め、水害に強いまちづくりを推進する必要がある。</p> <p>このように、当該基本施策について、今後も、力強く取り組んでいく必要があることや、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、普通と判断した。</p>

【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
床上浸水の被害戸数	戸	実績	0	0	0	0	7	平成29年度の指標値が前年度より増加した要因として、7月14日などの記録的豪雨により、久保一色地区中心に浸水被害を受けたため	7月14日などの豪雨や過去の浸水被害を踏まえ、その被害区域を解消するために計画的に実施している事業であり、継続する必要がある。
		目指す方向性	0戸						

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	<p>事業名: その他の河川水路整備事業 削減額: 643,000円 削減内容: 本事業は老朽化の著しいものや区長申請等を通じて要望のある河川水路について、良好な排水状態を維持するための事業である。 削減内容としては、老朽化により改修を求められている河川水路について、整備手法の検討や改修スケジュールの見直しなど行うことにより、15節 工事請負費から643千円の削減に努める。</p>
実施計画事業	資源投入の考え方	—

展開方向1		名称	浸水区域を解消します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
		目的	○浸水被害を最小限に抑制します。								
		所管課	河川課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度				
排水ポンプ場処理流域における床上、床下浸水の被害戸数	戸	実績	0	0	0	0	0	降雨による排水ポンプの稼動が、藤島ポンプ場で11日、自オポンプ場は6日あった。不具合なく適切に排水ポンプ稼動したこと。及び、排水ポンプ場処理流域には、河川整備の計画降雨降水量以上の大雨が無かったため、浸水被害が発生しなかった。	排水ポンプ場処理流域における床上、床下浸水の被害戸数について、本処理区域においては、小牧市の河川整備の計画降雨降水量(5年確立:時間雨量52mm)で整備済みであり、今後も適切に管理する必要がある。		
		目指す方向性	0戸								
床上、床下浸水の被害戸数	戸	実績	22	1	0	0	111	平成29年度の指標値が前年度より増加した要因として、7月14日などの記録的豪雨は小牧市の河川整備の計画降雨降水量(5年確立:時間雨量52mm)を大きく上回ったため、浸水被害を受けた。(7月14日:108戸、8月18日:3戸)	7月14日などの豪雨や過去の浸水被害を踏まえ、その被害区域を解消するため、今後も「新川流域水害対策計画」に基づき計画的に事業を継続する必要がある。		
		目指す方向性	↓								
展開方向2		名称	河川への雨水流出を抑制します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
		目的	○広域的な河川のはんらんの防止を図ります。								
		所管課	河川課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度				
雨水貯留率	%	実績	41.0	44.1	54.7	57.1	63.4	平成29年に指標値が前年度よりも増加した要因として、平成28年度繰越工事である双葉公園と大輪ポンプ場に雨水貯留施設を新設したため。	今後も「新川流域水害対策計画」雨水貯留量の目標値である19,454m <sup>3</sup> に向けて計画的に整備を進め、浸水対策として有効な手段である本事業を継続する必要がある。		
		目指す方向性	↑								